

令和4年度「蔵前小学校 授業改善推進プラン」

調査概要 【全国学力・学習状況調査】

調査対象 台東区蔵前小学校 第6学年

実施日 令和4年4月19日

実施教科 第6学年 理科

第6学年 理科

1 結果の分析

(1) 結果の概要

分類	区分	平均正答率(%)		
		本校	都	全国
評価の観点	知識・技能	59.2	63.6	62.5
	思考・判断・表現	65.5	66.5	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			

○全体的な状況の説明

◇評価の観点から

思考・判断・表現では全国平均よりも1.8%上回っているものの、東京都平均には1%下回っている。知識・技能については全国平均を3.3%、東京都平均を4.4%下回っており、基本的な学力の定着に課題がある。

◇正答率度数分布グラフから

解答状況における正答数の分布図によると、60%以上正答している児童が全体の56.1%を占めている。

(2) 結果から明らかになった課題

理科	個別の状況(課題)	解決すべき課題
	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に都や全国の平均正答率よりも低い傾向にある。 ○「生命」を柱とする領域についての理解 <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に都や全国の平均値に達していない項目が多い。 ・「昆虫」についての知識・理解が低い。 ○「エネルギー」「粒子」を柱とする領域についての理解 <ul style="list-style-type: none"> ・項目によっては正答率が20～30%台のものもある。 	<ul style="list-style-type: none"> →基礎的な学力の定着が図られていない。 →実物に触れる経験がなく、体験的な学習が少ない。 視聴覚教材を活用しきれていない課題がある。

2 改善策

(1) 具体的な改善策

理科	○知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ・用語の意味を自分の言葉で確実にノートに記入していくように指導する。
	○思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・実験結果の見通しをもって実験に臨み、複数の情報を分析して結果の考察をまとめる指導を徹底する。
	○主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> ・児童自らが学習問題を作り、予想から検証計画を作成して観察実験を行い、その結果からどんなことが推察されるか学び合える場面を設定する。

(2) 改善策(手立て)に対する検証

○体験的な学習を増やして興味関心を高め、プレテスト等を活用し、基礎的な学力の定着を図る。

○単元の最後にワークテストを行い、正答率が80%を指標として確認する。